

雨水浸透機能促進方策のあり方について

1 現状

- ・ 近年、都市化の進展により、雨水の浸透機能が低下しており、また、短時間に集中する局地的豪雨(いわゆるゲリラ豪雨)の頻発とあいまって、各地で都市型水害が発生し、大きな被害をもたらしています。
- ・ 本市でも、緑地や農地などの保水性のある土地利用が急速に減少し、雨水浸透機能が低下しています。河川・下水道整備と共に河川流域全体での総合的な対策として雨水浸透機能の強化が必要となっています。
- ・ なお、雨水浸透機能の低下は、都市型水害だけではなく、河川の平常時水量の低下、公共用水域の水質悪化など、環境問題の一因となっており、都市環境改善のため雨水浸透機能の強化による健全な水循環を回復する必要があります。

2 課題

- ・ これまでの雨水浸透機能の低下は、土地利用変化などまちづくりや市民生活に起因しています。したがって、都市計画など総合的な観点からの取り組みが必要であり、そのためには、雨水浸透機能の効用などに関する知見が必要です。
- ・ 「緑の10大拠点」は、雨水浸透機能の確保のためにも、その保全は重要な役割を有していることから、横浜みどりアップ計画と連携した取り組みが必要です。
- ・ 本市での雨水浸透機能強化に対する取り組みは、これまで雨水浸透ますの設置や歩道部での透水性舗装など雨水浸透施設の整備を進めています。特に、市民協働による取り組みという観点からは、民有地での雨水浸透ますの普及が喫緊の課題であり、平成19年度に「住宅用雨水浸透ます設置助成制度」を導入しましたが、ほとんど普及しておりません。

3 検討すべき事項(案)

(1) 雨水浸透機能の位置づけについて

雨水浸透機能の効用などを整理し、都市計画などの視点から雨水浸透機能についての位置づけを検討します。

(2) 雨水浸透機能強化の目標設定などについて

中長期的な雨水浸透機能の確保に対する目標の考え方や実現に向けた取り組みの方向性などを検討します。

(3) 雨水浸透機能の強化と河川・下水道整備計画との関係について

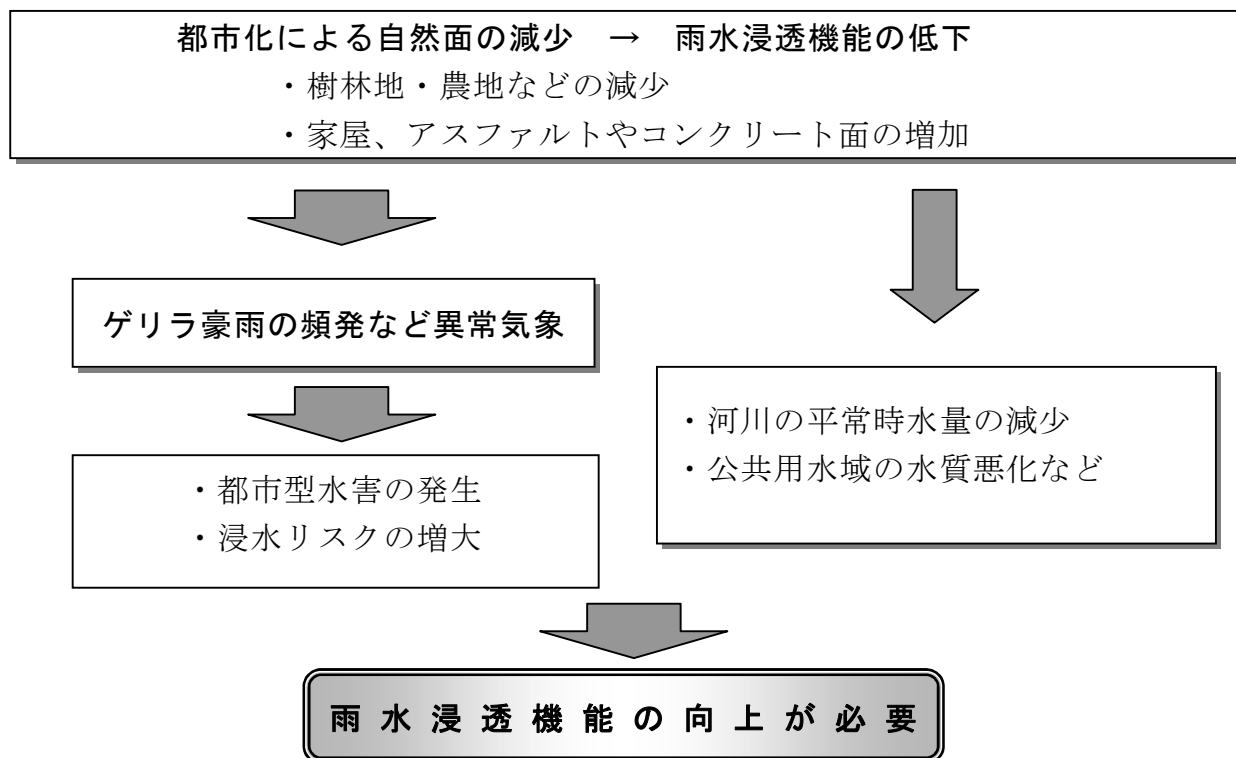
雨水浸透機能の強化をふまえた今後の河川や下水道整備計画との関連性を検討します。

(4) 雨水浸透機能の促進方策について

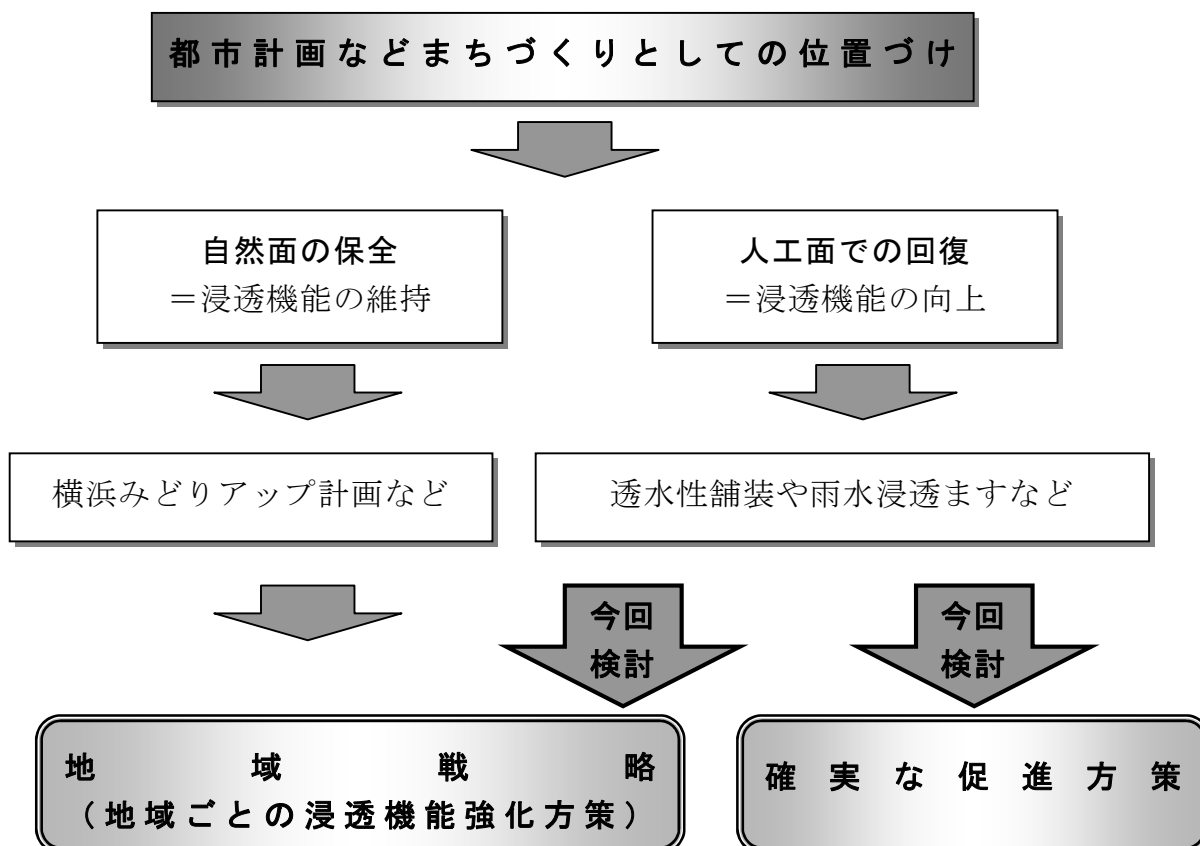
浸透機能は地質条件によりその効果が異なるため、地域ごとで効果を踏まえた促進方策を検討します。また、雨水浸透施設の普及に関し、市民、行政の役割、協働の取り組み、雨水浸透ますや透水性舗装などの拡大の方向性について検討します。

検討の流れイメージ

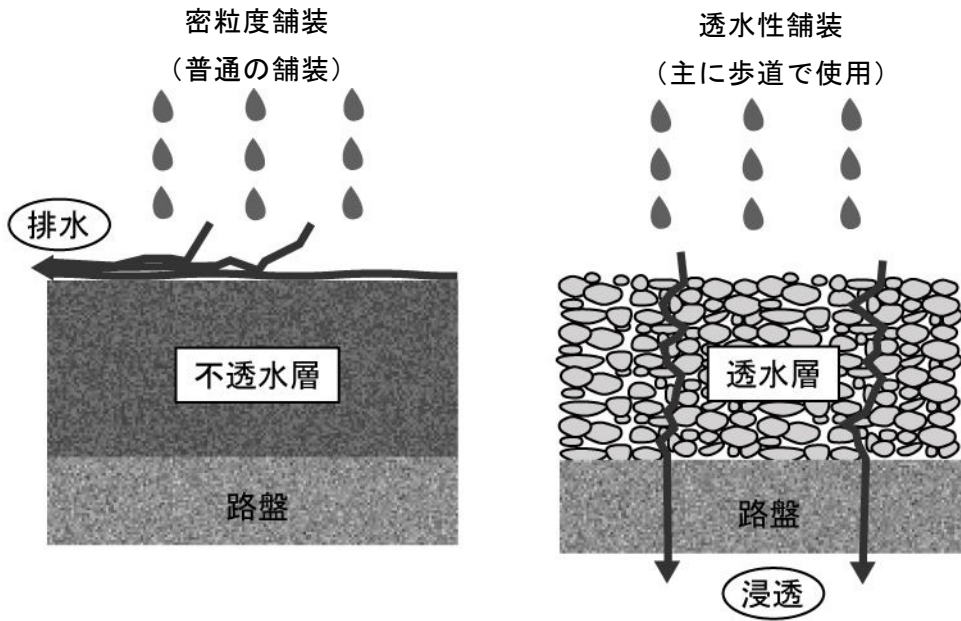
1 雨水浸透機能の現状



2 雨水浸透機能の強化に向けて



透水性舗装の概念図



分流地区における雨水浸透施設の配置例

